

「患者満足度向上がもたらす歯科臨床の可能性」

～治療可能な歯を抜歯してしまう危険を含むターゲット戦略・ヒヤリ・ハット対策、
そしてBCPへの備え～

敬爾会いがらし歯科イーストクリニック

五十嵐 尚美

歯科医院では、患者満足度を向上させることが、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士のやりがいにつながり、結果として医院の経営の安定化に貢献しています。

ただし、「患者満足度」という言葉の意味は一様ではありません。対象を絞ったターゲット戦略か、それとも広い患者層に向けた満足度の向上を目指しているのかにより、臨床のアプローチは大きく異なります。また、保険診療と自費診療において、果たして保険診療の治療が、質が低いと言い切れるのか、という点についても議論が必要です。

今回の講演では、ターゲットを絞りすぎた臨床に潜む落とし穴について、実際の臨床症例を用いて共有いたします。

また、臨床を行う際に生じる問題点をヒヤリ・ハットとしてどのように記載し、対策を実施し、さらには振り返るための院内での仕組みについて発表いたします。さらに、今後求められるBCP（事業継続計画）対策の重要点についてもお話ししたいと考えています。

「高齢者に向けた、義歯・建築家®の役割」

——— 52年の経験から見た、歯科医療人の立場の確立について

川島 哲

少子高齢化なる我が国の人口動態は、加速度を増し世界一の長寿国となりました。

その影響で、欠損補綴のニーズは様変わりしております。

現代歯科医療の進歩により高齢者の義歯傾向は、総義歯が減少する時代です。

そのことで、鉤歯に対する考え方も、MIによる低侵襲の傾向にあり、レストレーションも天然歯に最小限のプレパレーションをするようになりました。例え歯冠修復する場合であっても、積極的にデザインクラウンを推奨する傾向は減少しつつあります。

そこで今回は、私の半世紀に及ぶ生命維持装置（Denture）、いわゆる義歯に生命力を与える考え方（義歯建築家®）の基本と技術的に必要な事も披露させていただきます。

同時に歯科医療人としての自覚と経済的立場の確立をお話いたします。